

TEIJIN

帝人株式会社

<https://www.teijin.co.jp>

未 来 の 社 会 を
支 え る 会 社

パーパスを体現することで「未来の社会を支える会社」に

帝人グループは長期ビジョンを実現するため、
グローバルに社員同士で話し合い、パーパス(存在意義)を策定しました。
そして、そのパーパスを行動に移すための共通の価値観を
3つのバリューにまとめました。

TEIJIN

パーパス
**Pioneering solutions
together
for a healthy planet**

すべての挑戦をリスペクトします

バリュー 多様な仲間と専門性を活かして成長します

地球とあらゆる生命に寄り添い、守ります

長期ビジョン
未来の社会を
支える会社

帝人グループは創業以来からの先見性やアントレプレナーシップの精神を重んじ、
社員の多様性や強みを活かし、お客様と共に社会課題に対するソリューションを提供することで、
ステークホルダーの皆様と共に共感され、地球環境やそこに住む人々、
あらゆる生命に寄り添い存在意義を発揮します。
理念体系図はパーパスを軸にバリューを実現し、
長期ビジョンを達成することで未だに
未来の社会の可能性が広がることを表現しています。

暮らしを支える 身近なソリューション

暮らしのここにも、あそこにも。
帝人グループの製品やサービスは
社会の隅々で人々の生活を支えています。
ここではその一部を紹介します。

在宅医療

呼吸器疾患への酸素濃縮装置や睡眠時無呼吸症候群(SAS)治療器など、患者さんの在宅医療を支える医療機器・サービスを通してQOL向上に貢献。

EV向けバッテリーボックス

当社が培ってきたマルチマテリアル技術を駆使し、電気自動車(EV)バッテリーの環境効率や安全性の向上に貢献。

地域包括ケアシステム関連

地域包括ケアシステムの実現に向け、多職種連携情報共有システム「バイタルリンク」を提供するほか、訪問看護ステーションを運営。

航空機の構造材

鉄の約10倍の強度を持ちながら、重量はわずか4分の1である炭素繊維「テナックス」。機体を軽量化することでCO₂排出量低減に貢献。

医薬品

「骨・関節」「呼吸器」「代謝・循環器」などの医薬品に加え、より支援を必要とする希少疾患や難病などの疾病領域にも注力。

自動車部材

強度と耐久性に優れたバラ系アラミド繊維「トワロン」を使ったタイヤ補強材やブレーキパッドなどの摩擦材は、自動車の騒音、振動を軽減し、ドライバーの快適性と安全性を向上。製品の長寿命化にも貢献。また、ポリカーボネート樹脂「パンライト」「マルチロン」「パンライトフィルム」は、外装やタッチパネルなどの内装に使用され、車体の軽量化だけでなく、音や匂いの制御やディスプレイ先進化に対応した製品を通して車内空間の快適化に貢献。

消防服

400℃超の耐熱性、優れた防炎性を有するメタ系アラミド繊維「コーネックス」は、消防に携わる方々の安全性と快適性の両立に寄与。

テニスラケットのフレーム

繊維シートに樹脂をしみこませた炭素繊維中間材料プリプレグを使ったスポーツ用品は、高い強度や耐久性、軽量化などを実現。

スマートフォン部材/部品

高屈折率かつ低複屈折を実現したポリカーボネート樹脂「パンライト」によりカメラの小型化、高性能化を実現。また、革新的セパレータ「リエルソート」がリチウムイオンバッテリーの安全性向上と長寿命化に貢献。

天井材

ポリエステル製タテ型不織布を基材とした、柔らかな超軽量天井材「かるてん」。地震などで天井が落下した際にも、人や物への被害を低減し安全性向上に貢献。

高付加価値スポーツ衣料

吸汗速乾性やUVカット性など高機能でありながら、環境にも配慮されたスポーツ・アウトドア向けの素材・衣料を販売。

機能性食品

一般の大麦の約2倍の総食物繊維量を誇るスーパー大麦「バーリーマックス」はコンビニで販売されるおにぎりなどに使用され、人々の日々の健康に貢献。

製品・サービス一覧

テイジンは、事業の枠を超えて新たな「化学反応」を起こし、
私たちの暮らしを支えるさまざまな製品・サービスを生み出しています。

モビリティ、インフラ&インダストリアル、ヘルスケアという3つの領域を中心として、
複雑化する社会課題に対応するソリューションを提供します。

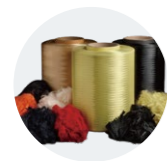
マテリアル事業



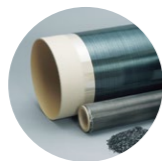
**モビリティやインフラ&インダストリアル市場を
中心に地球環境に配慮した
ソリューションを提供**

危険な環境下で働く人を守る作業服から、日々の生活に欠かせない自動車、航空機、エレクトロニクス機器などの産業用製品まで、当社の高機能なマテリアルは、幅広い領域で活用されています。異なる技術や機能を組み合わせることで、複雑化する社会課題に対応しています。

アラミド



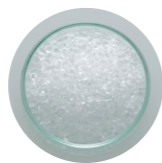
炭素繊維



複合成形材料



樹脂



繊維・製品事業



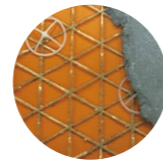
**「せいの」の力で快適で
サステナブルな暮らしを実現**

衣料繊維および産業資材の分野において、研究開発から最終製品までの一貫した供給体制により、多彩な用途展開と新市場の創出に取り組んでいます。モビリティ、環境、インフラといった成長領域でマーケット拡大を図るほか、独自のセンシング技術を中心とした新事業の取り組みを強化しています。

高付加価値な
スポーツ・ファッション
衣料用繊維



安心・安全な
暮らしを支える
高機能資材や製品



高機能繊維と
センシング技術を
融合した新事業



ヘルスケア事業



**培ってきた事業基盤を活かして、
より支えを必要とする人々の課題を解決**

人々が健やかに自分らしく生きられる未来の実現に向けて、医薬品と在宅医療を両輪とした事業を展開しています。希少疾患・難病領域などを中心として、長年培ってきた事業基盤を活かしながら医薬品や医療機器を組み合わせることで新たな価値の提供を目指しています。

医薬品



在宅医療



地域包括ケア関連



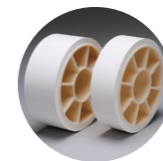
新事業



**帝人グループのコア技術を活かして、
新たな価値の創造に挑戦**

耐熱性・接着性などに優れるリチウムイオン2次電池用のセパレータや再生・細胞医療等製品の開発および開発製造受託(CDMO)事業など、長年培ってきた技術力を活かした新事業を展開しています。事業の将来性を見極めた上で、戦略的な資源投入により早期の事業拡大と収益化を目指します。

セパレータ・
メンブレン



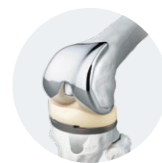
機能性食品素材



再生医療



埋込型医療機器



「未来の社会を支える会社」となるために。
ティジンは、いつでも、どんな状況でも、「挑戦者」であり続けます。

だから、ティジンも変わりつつける。
社会は変わる。人も変わる。
常に新たな領域へ挑戦し、困難を乗り越え、進化を遂げてきました。
1918年、日本初の国産レーヨン（人造絹糸）メーカーとして産声を上げたティジンは、戦争やオイルショックなど時代の大きな波の中で、

変革と挑戦。 これがティジンのDNA。

Keep on Challenging
雨だれ
石を穿つ



久村 清太



秦 逸三



金子 直吉

1904

「レーヨン」の国産化に挑む

19世紀末から20世紀初頭にかけて欧米で工業化されたレーヨンは、生糸に変わる素材として瞬く間に世界中へ普及し、大正末期には全世界合計で生糸の生産量を上回るほどに。当時の日本では、のちに帝人の創業者となる金子直吉、久村清太、秦逸三らが、レーヨンの国産化を目指し研究を開始する。

1915

創業者3人の情熱が実を結ぶ

1915年に鈴木商店傘下の東レザーの分工場として米沢人造絹糸製造所を発足し、翌年に人絹糸の製造を開始。操業当初は「糸になる時もあれば、ならない時もある」というレベルであったが、3人はあきらめずに試行錯誤を繰り返し、1917年末頃には、ついに安定的に生産できる技術を確認。そして1918年には、帝国人造絹糸株式会社が発足。第一次世界大戦の激化で国内製品の需要が高まり、猛烈な勢いで事業を拡大していく。

1931

「黄金期」からの一転

軍需景気の高まりや種々の景気対策、糸質や加工技術の向上などにより、レーヨンの需要は拡大しつづけ、やがて日本のレーヨン糸生産量は世界第1位に。「黄金期」であった1933年、帝人は株式上場を果たす。しかし時代の大きなうねりのなかで、原料・資材の入手難によってレーヨン生産量は激減。やがて高度経済成長期が到来するも繊維業界は過剰設備に苦しみ、レーヨンは衰退の一途をたどる。

Challenge

独自技術で 合成繊維「テビロン」を開発

1948年から合成繊維の研究を開始。原料の入手難でたびたび中止するも、55年には独自技術によるポリ塩化ビニル繊維「テビロン」を開発。これはティジンの「テ」、ビニルの「ビ」、ナイロン・ビニロンの「ロン」から組み合わせた造語で、衣料品や生活用品、各種工業用品にも販路を広げ、技術面の高さから第5回大河内記念賞や恩賜発明賞を受賞した。

実を結ぶ
蒔いた種が

Keep on Challenging

1968

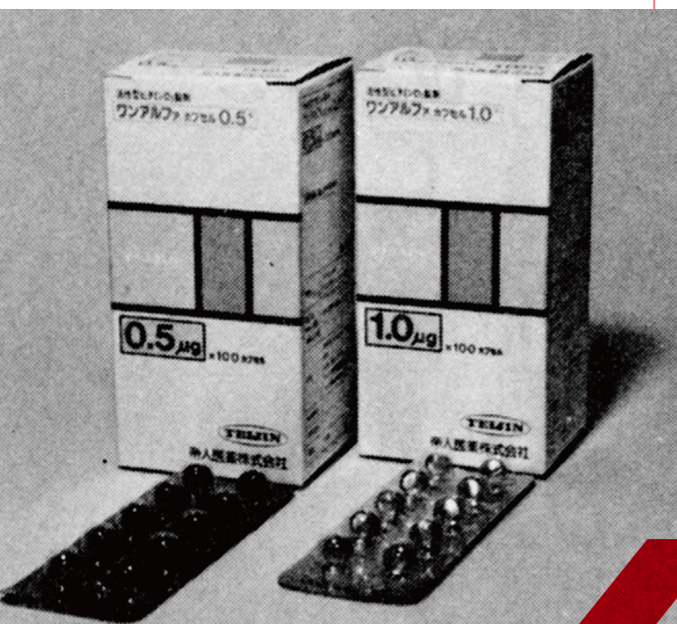
基盤技術を活かした多角化の推進

ポリカーボネート樹脂事業とポリエステルフィルム事業が目覚ましく成長し、1960年代後半からの10年間で化成品事業の売り上げは約20倍に伸長。同時に、石油開発や食品、生活、情報、医薬などの新たな事業に積極的に取り組み、なかでも医薬事業が大きく花開いた。トップの強力なリーダーシップ、思い切ったR&Dへの先行投資、他社との多角的な取り組みにより、各事業がますます拡大していく。

Challenge

医薬事業の「骨・関節」領域への参入

テイジンは自社創業により活性型ビタミンD3の合成に成功し、腎不全の患者さん向けに初めて活性型ビタミンD3製剤「ワンアルファ」の製造承認を1980年に取得した。「ワンアルファ」にはカルシウムの吸収と骨代謝を促す効果も期待できたことから、骨粗鬆症の治療にも役立てられないかと考えた。当時、社会では骨粗鬆症の認知度が低く、薬剤開発の手法も確立されていなかったが、当時のフィルム事業が保有していたフィルムの濃度を定量化する技術を活用して、写真の影の濃度から簡単に骨量を測定できる「Microdensitometry法(MD法)」を発案。この手法を用いて骨粗鬆症の判別に必要な健康な人のデータを大規模に収集した結果、活性型ビタミンD3が骨量を増やすことが明らかになり、1983年に「骨粗鬆症」の適応を取得した。グループ全体でつかみ取った、現在へと続く「骨・関節領域」への貴重な一歩となった。



当初の製造承認を取得した自社開発医薬品「ワンアルファ」発売時の製品パッケージ

1980

挑戦を繰り返し、強靱な組織へ進化

1980年代に入ると、1971年に操業開始したメタ系アラミド繊維「コーネックス」事業を拡大し、1987年にはパラ系アラミド繊維「テクノーラ」も登場。また、1980年には自社開発第1号医薬品「ベニロン」を上市。医薬品開発経験のないテイジンが挑んだこの薬剤は急速に市場に浸透し、発売後2年で大型商品の仲間入りを果たす。

1992

環境経営への取り組み

1992年には「帝人地球環境憲章」と「帝人地球環境行動目標」を制定。「環境経営」の一環としてマテリアルリサイクル事業に参入し、1995年からペットボトルを原料とするリサイクルポリエステル繊維「エコベット」の製造・販売を開始。のちの繊維to繊維の循環型リサイクルにつながった。2000年にパラ系アラミド繊維「トワロン」関連事業をオランダのAcordis社から買収し、高付加価値領域での事業展開を進めるとともに、ペットボトルのケミカルリサイクル事業にも進出。2008年には「複合材料開発センター」を開設し、複合材料の研究開発に着手。新たな価値創造の時代へと突入する。

2008

顧客・市場視点でのソリューション提供を強化

高機能繊維への注力、樹脂の川下展開強化等により、顧客・市場視点でのソリューション提供に向けた組織改編と事業展開を強化。複合材料では、2011年に熱可塑性炭素繊維複合材料「Serebo(セリーボ)」の製造タクトタイムを約1分に短縮し、世界で初めて量産対応が可能に。ゼネラルモーターズ社のピックアップトラックの荷台部分(ピックアップボックス)に採用された。

2018

創立100周年を迎える

「人を中心に化学を考える企業」として、社会の進化をもたらすソリューションを提供し続けることを決意。

Challenge

心・血管修復パッチ

ポリマーを用いた製品設計技術および医療機器の開発ノウハウを活かし、大阪医科大学・福井経編興業株式会社と共同で開発した心・血管修復パッチ。先天性心疾患の治療に使用されるこのパッチは、患者さんの成長に伴って伸張し、組織の成長を阻害しないため、再手術のリスク低減が期待されている。多くの関係者の努力が実を結び、2024年6月に上市。



先天性心疾患の患者さんの新たな選択肢となり得る、心・血管修復パッチ

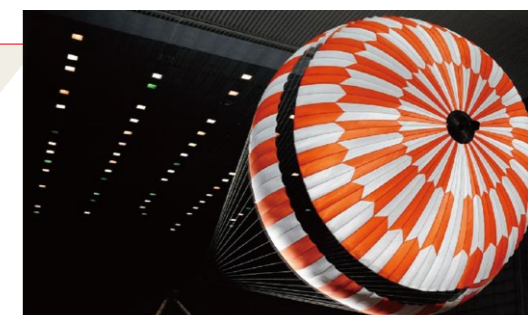
千変万化
未来永劫

Keep on Challenging

Challenge

パラ系アラミド繊維「テクノーラ」、宇宙開発を支える

2020年に打ち上げられた、米航空宇宙局(NASA)の無人火星探査機「パーセヴェランス」に搭載された着陸用パラシュートに、パラ系アラミド繊維「テクノーラ」が採用。このパラシュートは、30,000kgを超える荷重、平均気温マイナス63℃、砂塵嵐や大気電気といった過酷な環境に耐えうることが実証された。これに先立ち、2012年に打ち上げられた、NASAの無人火星探査機「キュリオシティ」の着陸用パラシュートのサスペンション・コードにも使用されており、9Gの重力、約27,000kgの荷重に耐えたことが高く評価され、「パーセヴェランス」にも採用された。軽量ながら高い強度を有する「テクノーラ」は、宇宙開発を支えている。



@JET Propulsion Laboratory

「パーセヴェランス」に搭載された着陸用パラシュート

2024

帝人グループのパーパスとバリューを定義

新たなパーパスの下、帝人グループは一丸となって、「未来の社会を支える会社」の実現に向けて、挑戦を続けていく。

「未来の社会を支える会社」になるために。

地球環境やそこに住む人々が、健やかで明るい未来を歩めるように、「地球の健康を優先し、環境を守り、循環型社会を支える会社」として、そして「より支えを必要とする患者、家族、地域社会の課題を解決する会社」として、テイジンは地球環境と社会に与える負荷を最小限に抑え、社会課題の解決に貢献する革新的なソリューションを提供していきます。

パーパス

Pioneering solutions together for a healthy planet

長期ビジョン

未来の社会を支える会社

地球の健康を優先し、環境を守り、
循環型社会を支える会社

モビリティ、インフラ&インダストリアル市場における
機能材料や加工・ソリューション型事業の展開

より支えを必要とする患者、家族、地域社会の
課題を解決する会社

希少疾患・難病領域における
在宅医療事業で培ったサービス基盤を活かした展開

重要社会課題



気候変動の緩和と適応



人と地域社会の安心・安全の確保



サーキュラーエコノミーの実現



人々の健康で快適な暮らしの実現

重要経営課題



持続可能な経営基盤のさらなる強化

ガバナンス・リスクマネジメント・コンプライアンス・人財・技術



素材の力で、“遠い場所”を
“身近な場所”にするソリューションを提供したい

テイジン・カーボン・ヨーロッパ
エアロスペースマーケティング、EMEA 担当
佐々木 みず葵さん

**世界有数の炭素繊維製品メーカーとして
「未来の航空機」をつくる**

テイジン・カーボン・ヨーロッパ(TCE)は、帝人グループの欧州における炭素繊維事業のグループ会社で、炭素繊維の製造および炭素繊維を加工した中間材料や部品などの開発・製造を行なっています。設立以来、航空宇宙や自動車、土木資材や医療、スポーツ用品など、さまざまな分野で革新的なソリューションを提供しています。私が当社に入社したのは2015年、当初は技術開発の部署で、飛行機の主翼や胴体内で使われる炭素繊維複合材料を開発していました。その後、航空宇宙材料の営業部門に異動し、そこでは国内やアジアの顧客への技術サポートを担当。2021年からはドイツにあるTCEに出向し、現在はアプリ



ケーションエンジニアとして、欧州の顧客企業への技術サポートや開発プロジェクトの管理業務を行なっています。

**高強度と軽量性を兼ね備えた
革新的な素材**

炭素繊維は鉄の10倍の強度を持ちながら、重量は鉄のわずか4分の1。実際に持ってみると、ほとんどの方がその軽さに驚きますが、高強度と軽量性の両立を可能にする、非常に画期的な繊維です。基本的には樹脂などと組み合わせた複合材料として使われますが、耐疲労性や防錆性、耐薬品性にも優れることから、さまざまな可能性が期待されています。炭素繊維自体は、50~60年くらい前からスポーツ用品や自転車などで使われていましたが、近年は航空機や自動車など、活用される幅がますます広がっています。特に当社の炭素繊維「テナックス」は、航空機用途を中心に世界トップクラスの品質と高いシェアを誇っており、2022年度には航空機、風力発電、レクリエーションを含む用途全般において販売量が増えました。コロナ禍で国際線の旅客需要が落ち込んでいましたが、需要回復を見込み、現在は航空機向け中間材料プログラム獲得に向けた開発を推進しています。

**カーボンニュートラルを
実現するために**

主翼や胴体などの一次構造材は航空機の重量に占める割合が大きく、炭素繊維中間材料を使用して機体を軽量化することで、燃費を大幅に改善し、CO₂排出量の削減につなげることができます。また、欧州では環境やリサイクルに関する感覚が日本に比べて高く、実際にお客さまからも、その材料や製品がどのようにリサイクルされるのかまでを含めたソリューションの提案が求められます。当社はすでに、リサイクル炭素繊維の取り組みを進めていますが、今後もさらに炭素繊維の可能性を追求することで、さまざまな切り口から持続可能な社会の実現に寄与できると考えています。

**「人」を中心に据えた
ソリューションを提供**

もうひとつ、大きな課題として取り組んでいるのが生産プロセスの効率化です。当社はこれまで、炭素繊維の「糸」そのものを航空機メーカーや中間材料メーカーに供給してきましたが、今後はより航空機向け中間材料の製造を手がける方向にシフトしていきます。航空産業は、短期的にはコロナ禍による打撃を受けましたが、長期的に見ればさらなる市場成長が見込まれています。そのため、航空機メーカーはより多くの機体を生産するため、生産プロセスをより効率化していく必要があります。そこで私たちは、航空機に使われる中間材料の樹脂を固める工程にかかる時間を大きく圧縮する製造方法を開発しました。従来の方法では5~6時間かかるところを、装置と材料の組み合わせを変えることで、わずか20~30分にまで短縮しました。私はもと



炭素繊維「テナックス」を使用した航空機の構造材

もと技術職として製造・開発を担当していましたが、現在は実際の現場で、私たちの製品やサービスがどのように使われるのかを見て、お客さまの課題を解決するサポートを行なっています。このように、炭素繊維という素材そのものにとどまらず、実際に使われるプロセスまでを含めた技術開発を行なっていることも、当社の強みのひとつですね。

見据えているのは「未来の空」

炭素繊維が多く使われる航空機産業では、米国と欧州にそれぞれ有力な航空機メーカーがあり、当社の炭素繊維事業もそれぞれに生産拠点を構えています。私はドイツ西部の工業都市ブッパータルにある職場で、世界中から来た同僚とともに、日々の業務に取り組んでいます。航空産業の開発は、とても長い時間をかけて行なわれるため、提案した素材がすぐに航空機の機体に使われるわけではありません。その意味では、私たちは常に10~20年後の航空機を見据えています。

炭素繊維が航空宇宙分野にさらに広がることで、航続距離はどんどん伸び、「遠くてなかなか行けなかった場所」がもっと身近になっていくでしょう。私たちは「未来の社会を支える会社」として、そんな将来を思い描きながら日々の仕事に取り組んでいます。「未来の空を飛ぶ航空機に、自分が開発に携わった技術が使われるかもしれない」と考えると、とてもやりがいを感じますね。いつか自分が開発に関わった航空機が運行する日には、ぜひ乗りたいな、と思います。



循環型社会実現に向けた取り組み

テイジンは、「気候変動の緩和と適応」「サーキュラーエコノミーの実現」をマテリアリティに据え、グリーンエネルギーの導入やエネルギー消費量の削減、リサイクル技術の向上などに取り組んでいます。

気候変動の緩和と適応

軽量で耐久性に優れた安全な自動車部品

2023年、ロータス・カーズの新スポーツカー「エミーラ」のドア、リアクォーターならびにテールゲートの部品に、テイジン・オートモティブ・テクノロジーズ(TAT)のGF-SMC(熱硬化性樹脂をガラス繊維に含浸させシート状にした成形材料)が採用されました。TATのGF-SMC製の超軽量成形部材「TCA Ultra Lite」は、従来のコンポジット部品よりも最大約4割の軽量ながらも、強度や耐久性に優れた他、外板部品の塗装に要求される「クラス A」品質を実現しています。



バイオマスポリカーボネート樹脂の生産・販売開始

国内で生産するポリカーボネート樹脂(PC)について、ISCC PLUS認証(持続可能な製品の国際認証)を取得し、マスバランス方式を用いたバイオマスPCの生産・販売をしています。このバイオマスPCは、従来の石油由来PCと同等の物性を有するため、従来品からの切り替えが容易で、製品ライフサイクル全体における温室効果ガス排出量の削減に貢献します。

新たな燃料電池ユニットと圧力容器ユニットの開発

2023年、燃料電池の利用促進と活用範囲拡大のため、燃料電池の稼働に必要な機材を一体化した燃料電池ユニットと、同ユニットに水素を供給する圧力容器ユニットを開発。工事現場での実証を通じて、さまざまな用途への展開を検討し普及を進めることで、CO₂排出量削減などの環境負荷低減に貢献します。



サーキュラーエコノミーの実現

リサイクル材料を使用した パラ系アラミド繊維「トワロン」長繊維の製造に成功

2021年、テイジン・アラミドB.V.は、使用済みのパラ系アラミド「トワロン」をリサイクルし、再び長繊維として生産する技術を開発。世界で初めてパイロット生産に成功しました。リサイクル長繊維の性能は、通常品である「トワロン」長繊維とほぼ同等で、優れた強度と耐久性を備えています。今後もパートナーや顧客との連携を強化し、製品の製造工程で発生する端材や使用済み最終製品などの回収・リサイクルを進めていきます。



地球と共存するポリエステル繊維「ECOPET」の開発

資源枯渇やCO₂増加、環境汚染の問題に対応した環境配慮素材として、1995年からリサイクルポリエステル繊維「ECOPET」を製造・販売しています。使用済みペットボトルはマテリアルリサイクル工程を経て、従来廃棄されていたポリエステル繊維・裁断くずはケミカルリサイクル工程を経て、リサイクルポリエステル繊維に生まれ変わり、衣料をはじめインテリアなどの生活資材や自動車内装材などの産業資材まで、幅広い場面で利用されています。

プラスチック海洋ごみ問題に取り組む「RE:ism」の設立

帝人は2021年から、漁網製造、プラスチック成型、繊維加工、樹脂加工をそれぞれ専門とする4社とともに、使用済みポリエステル製漁網のマテリアルリサイクルの新事業「RE:ism」を開始。回収から販売までのサプライチェーンを分業し、ポリエステル製漁網を樹脂ペレット化したのち、トレーや文房具などへ生まれ変わらせる事業を展開しています。



FOCUS

環境負荷を定量化し、改善活動につなげる

持続可能な社会の実現に貢献し「未来の社会を支える会社」となるためには、まず帝人グループの事業活動に伴う環境負荷を定量化する必要があります。そのため私たちは、ISO 14040および14044に準拠したライフサイクルアセスメント評価を進め、生産プロセスでの環境負荷を正確に算出する取り組みを行っています。

これらの結果は、私たちのお客様やエンドユーザーにとっても、バリューチェーンにおける自分たちの影響を定量化するために使用できるため有益なものです。とはいえ、この取り組みは最初のステップにすぎません。この結果を基にどの部分に改善点があるかを特定し、負の影響を減らすために必要な対策を講じていく必要があります。そのために、私たちは社内のイノベーションと、バリューチェーンに存在するステークホルダーの皆さまとのコラボレーションを推進しています。また、今日の化学メーカーが直面し

ている主要な環境課題の一つは資源の枯渇です。帝人グループはマテリアル事業を展開する会社ですので、開発する製品やソリューションによってサーキュラーエコノミーの実現に貢献することが可能です。そのため、2023年4月には「環境ソリューション部門」を設立し、クリーンエネルギーやサーキュラリティなど、持続可能性に関する研究開発や事業開発の強化に取り組んでいます。特にサーキュラーエコノミーの実現は単独での達成は困難ですので、業界全体のパートナーとの密な連携を図りながら取り組んでまいります。



サステナビリティ推進部 欧州サステナビリティグループ
スミタ・スングラム博士



誰もが安心して
在宅医療を受けられる
社会を目指して

“テイジンならなんとかしてくれる”、
そんな存在でありたい

帝人ファーマ株式会社 流通管理部
内田 美奈子さん

日本初の医療用膜型酸素濃縮装置を開発

帝人ファーマは医薬品と在宅医療の2つの中核事業を展開しています。私は在宅医療に関連する業務を行っており、酸素濃縮装置のほかに人工呼吸器、睡眠時無呼吸症候群の治療に用いられる「CPAP」という装置などを提供しています。当社は日本で初めて医療用膜型酸素濃縮装置を誕生させ、それまで入院するしか選択肢がなかった慢性呼吸不全の治療において、患者さんが手軽にご自宅で酸素を吸入できる「在宅酸素療法(HOT)」という新たな道づくりに携わりました。在宅酸素療法(HOT)によってご自宅にしながら療養ができるため、患者さんのQOLは向



上しました。さらに、機器の開発販売とあわせて、保険適用に向けた働きかけや医療機関が利用しやすいレンタル方式の導入など、普及に向けた努力も重ねてきたことで現在に至ります。

「機器の開発」にとどまらない ソリューションを提供

さらに私たちは、酸素濃縮装置の開発や提供にとどまらず、地域密着型のサービス体制を構築しています。具体的には訪問看護ステーションや24時間365日対応のコールセンター、携帯電話網を活用した機器のモニタリングシステムなどによって患者さんを見守るとともに、災害時には災害対応支援システム「D-MAP」を患者さんの安否確認に活用しています。いつ何が起こるかわからない時代ですから、このようなシステムの需要がますます高まっていくことを感じています。

24時間365日の保守管理体制を確立

安全な在宅酸素療法を実現するために、私たち事業者には患者さん宅の機器の管理やトラブルへの対応、そして個人

情報漏えい防止などに対する保守管理体制が求められます。患者さんの生活を支えるための24時間対応を維持し、緊急時や災害時にも酸素を途切れさせないためには、単に「機器を提供して終わり」というわけにはいきません。当社では日本全国に124ある営業所*に看護師や機器のメンテナンスを行うケア職を配置し、きめ細やかなサービスをご提供できるよう努めています。

*2024年3月現在

全ての安否確認事例が 貴重なデータとなる

この保守管理体制は、非常事態であっても途切れさせてはなりません。当社では阪神・淡路大震災や新潟県中越沖地震などの経験を踏まえて、独自の災害対策を進化させてきました。そのひとつが「D-MAP」です。

災害発生時に営業所の担当者がまず着手するのが、在宅患者さんの安否確認です。「D-MAP」は一定の震度以上の大きな地震や、風水害などで自治体から発信される避難情報が出されると、その情報を自動受信して被災地域にお住まいの当社機器を使用している患者さんを特定し、個別に電話で状況確認していきます。酸素濃縮装置の稼働状況や酸素ポンベの酸素残量のほか、どこへ避難されるのか、避難先に酸素濃縮装置はあるのか、といったことを一人ひとり確認し、必要であれば社員が緊急支援に向かうこともあります。

いつでも「人」を中心に据えた ソリューションを

東日本大震災発生時には、地震発生から10分後には約25,000人の患者さんがリストアップされ、行政や医療機関と連携しながら対応していきました。現場の社員は患者さん一人ひとりのお宅を訪問して状況を確認していったのですが、このように患者さんに寄り添い、「人」を中心に据えたサービスを提供する姿勢こそ、当社の強みだと思います。

災害対応の事例と対応方法の一つひとつは、貴重なデータとして社内に蓄積されています。これによって他のエリアの災害時の状況や対応を事業全体で共有でき、過去の経験がより良い仕組みや製品の開発に繋がります。流通管理部では、当社が実施した安否確認データを医療機関に共有する仕組みづくりを行い、現在は蓄積した

データを提携先の医療機関に提供することが可能となりました。

患者さんのさらなる安心のために

阪神淡路大震災が起こった当時には、現在のようなシステムは確立しておらず、患者さんの情報を紙の台帳でやりとりしていました。そのため安否確認を行うのに約2週間も要したのですが、その教訓から在宅医療地震災害対策マニュアルの整備、酸素ポンベの備蓄増強などを経て、2007年の新潟県中越沖地震の経験から「D-MAP」の構想が生まれました。

そして東日本大震災、熊本地震といった大きな災害を経てシステムを改善し続け、現在はリアルタイムで情報を入力できるほどに進化しました。行政や医療機関などともこのシステム上で繋がり、データをスピーディに共有できればいいのですが、個人情報保護などの問題もあってなかなか難しいのが現状です。しかし、これは将来的に克服したい課題の一つです。



東日本大震災の被災地にポンペを届ける社員

「未来の社会の安心」を実現するために

私たちが目指すのは、地域医療の現場において、医療関係者の方々からも患者さんからも頼りにされる会社。「テイジンに言えばなんとかなる」という存在でありたいと考え、常に改善を重ねています。近年は地震以外に豪雨災害など、災害の種類も頻度も増えています。全国各地で実施された安否確認のデータが未来の社会の安心に繋がる、そんな循環を作り出したいと考えています。

さらなる成長に向けて

当社は「未来の社会を支える会社」になるため、強みの活かせる領域で、多様な社員がそれぞれの能力を発揮することで成長を続けていきます。

成長投資の基本戦略

帝人グループは、成長する市場、帝人の強み(高分子化学や合成技術といった技術力等)が活かせる、モビリティ・インフラ&インダストリアル・ヘルスケアを中心に、サステナビリティや技術・顧客基盤獲得に資する投資対象に優先的に資源を配分していきます。

| モビリティ | インフラ&インダストリアル | ヘルスケア |
|---|---|--|
|  <p>電動化・電子化 周辺領域での拡大</p> <p>電動化・電子化の進展とともに放熱などの熱制御に関するニーズ拡大</p> |  <p>再生可能エネルギー周辺・サステナビリティ領域での拡大</p> <p>再生可能エネルギーの普及に伴い、大陸間送電需要が増加。使用される海底電力ケーブルの素材は軽量・高耐久・高耐食性が求められる</p> |  <p>希少疾患・難病領域などでの拡大</p> <p>希少疾患は約7,000疾患、内95%に治療薬が存在しない。長期にわたる在宅療養を行う難治性疾患が多くサポートが必要</p> |

想定市場と成長領域の事例

具体的な取組み例



洋上風力発電設備のイメージ

実証試験用の浮体式洋上風力発電設備の係留索に、パラ系アラミド繊維「トワロン」を使用したケーブルが採用

パラ系アラミド繊維「トワロン」を使用した係留索は他素材対比最小の直径、かつ軽量でありながら、係留張力下の寸法変化が極めて小さく、さらに高い破断強度を兼ね備えています。綺麗な海を守り持続可能な未来を実現するために、使用済みとなった係留索の回収、リサイクルにも取り組んでいます。

希少内分泌疾患のホルモン治療薬のライセンス契約の締結

帝人ファーマは、Ascendis Pharma(デンマーク)が開発中の希少内分泌疾患のホルモン治療薬について、日本での研究、開発、製造、販売に関する独占的ライセンス契約を締結しました。今後、日本での上市に向け、臨床開発及び製造販売承認の準備を進めていきます。今回の契約は、希少疾患・難病領域において医薬品や医療機器、新規サービスを導入し、パイプラインを拡充するための取組みの一環です。帝人グループは、目指す姿「より支えを必要とする患者、家族、地域社会の課題を解決する会社」に向けて、今後も取組みを進めていきます。



海外販売製品

バリュー「多様な仲間と専門性を活かして成長します」の実現に向けて

帝人グループは「人財」を究極の経営資本と位置付けています。多様な社員が、それぞれの人間的成長や豊かな人生を実現できるよう、魅力的な働く環境を整備し、社員の自律的なキャリア形成を支援します。

キャリア自律の支援とグローバルジョブポストिंग

社員が仕事を通じて専門性を高め、成長し、能力を最大限に発揮できるように社員のキャリア自律の支援をしています。社内公募制度で社員が希望するポジションに応募できるほか、任意選択型オンライン研修で自由に学べる仕組みを設けています。今後は、グローバルでジョブポストिंग(社内公募)を拡大していきます。

多様な人財がいきいきと活躍できる環境づくり

多様な人財の活用がイノベーションを促進すると考え、グローバルでDE&Iを推進しています。意思決定層における多様性推進のKPIを設定し、計画的な育成と登用を実施するほか、定期的にエンゲージメントサーベイで特定した課題に対するアクションを実施することで、多様な社員がいきいきと活躍できる組織風土を醸成しています。

フレキシブルな働き方と健康経営推進

ワークライフバランスの推進を目的にテレワークやフレックス等、柔軟な働き方ができる制度や、育児休業の取得促進(男女とも)、法定を上回る介護休職、配偶者海外転勤同行休暇などを設けています。また、心身ともに健康で働きがいを感じられる職場を目指して、基本的な価値観を「帝人グループ健康経営宣言」として表明しています。

FOCUS

海外実務者研修制度



コーポレート新事業本部 再生医療・埋込医療機器部門
インプラントブルメディカルデバイス戦略部
稲垣 拓也さん

海外のネットワークとグローバルな視点を活かし 事業貢献のできる研究員に

3か月間の研修を通し、ベンチャーキャピタルの代表者やアメリカ食品医薬品局の審査官など、130人以上とコネクションを作り、アメリカでの関係構築プロセスを学ぶことができました。同時にヘルスケア分野の海外トレンドに触れ、国内で得られる情報量の限界に適切な危機感を持ちました。帰国後は、海外のマクロトレンドなどを意識的に調査するようになり、また海外企業と面談を設定するなど、仕事の質も向上したと思います。ヘルスケア領域では日々、研究開発競争の激しさが増しており、オープンイノベーションのパートナー探しがますます重要になるでしょう。今回得たネットワークやマインドセットを活用し、グローバルな視点を持った研究員として事業貢献していきたいと思っています。

PRIDE 指標
企業などのLGBTQに関する取り組みを評価する指標

work with Pride
LGBTQ Gold 2022
4年連続で最高評価獲得

D&I アワード
企業の多様性推進の取り組みを評価する指標

D&I AWARD BEST WORKPLACE 2023
For diversity inclusion
3年連続で最高評価認定獲得

健康経営優良法人
経済産業省が特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度

2024
健康経営優良法人
Health and productivity
7年連続で選定

ダイバーシティ&インクルージョンに関する詳しい情報は
こちら



サステナビリティ

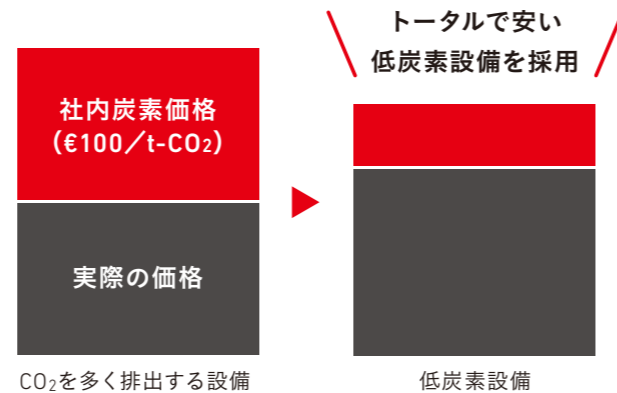
持続可能な社会の実現に向け、自社にとってのリスクと機会を整理し、持続可能な経営基盤として企業倫理・コンプライアンスや製造物責任(PL)・品質保証などのサステナビリティ活動を推進しています。また、事業活動に伴う環境負荷を最小化するため、温室効果ガス、水、有害物質、埋立廃棄物などのKPIを定め、取り組みを強化しています。これらの取り組みは代表的なSRI(社会的責任投資)指標に継続的に採用されるなど、国際的に高い評価を受けています。

| KPI | | | | |
|----------------------|-------------------------------------|------------------|--|---|
| 事業機会を 取り込む KPI | 気候変動 自社CO ₂ 削減貢献量 | 2030年度 | CO ₂ 総排出量 < CO ₂ 削減貢献量 | 製品使用による サプライチェーン川下での CO ₂ 削減効果 |
| | 気候変動 自社CO ₂ 排出量 | 2030年度 2050年度 | 30%削減 実質ゼロ実現 | 総量目標 電源の再エネ化、 熱源のクリーンエネルギー化 |
| 事業基盤を 強化する KPI | 気候変動 サプライチェーンCO ₂ 排出量 | 2030年度 | 15%削減 | Scope3 Category1における 温室効果ガス排出量 |
| | サーキュラーエコノミー 水 | 2030年度 | 30%改善 | 淡水取水量売上高原単位 |
| | サーキュラーエコノミー 廃棄物 | 2030年度 | 20%改善 | 埋立廃棄物量売上高原単位 |
| | 安心・安全 有害物質 | 2030年度 | 20%改善 | 有害化学物質排出量売上高原単位 |

※事業基盤を強化するKPIはいずれも2018年度を基準年とする目標値

インターナルカーボンプライシング

帝人グループではインターナルカーボンプライシング制度を、2020年度に制定・導入しました。これは、グループ内でグローバル共通として設定した社内炭素価格(€100/t-CO₂)を仮想的な費用に換算して投資の判断基準のひとつとして運用するもので、設備投資、M&A、再生エネルギーの調達に関する長期契約などに適用するものです。これにより、CO₂排出削減に資する投資計画を後押しし、CO₂排出削減に関する長期目標の達成を目指すとともに、将来予想されるグローバルでの炭素価格の上昇に備えています。



Envision Racing Formula E Team(エンビジョン・レーシング・フォーミュラEチーム)への協賛



帝人グループは、電気自動車や再生可能エネルギーの普及を推進するEnvision Racing Formula E Teamへの協賛活動を通じ、「気候変動の緩和と適応」に向けた当社の企業姿勢を、グローバルに幅広いステークホルダーへ伝えるとともに、環境負荷低減に資する当社の技術や製品の自動車業界における認知拡大を目指しています。

社会貢献



全国高等学校サッカー選手権大会に協賛

「アマチュアスポーツ支援」「青少年のスポーツ支援」といった社会貢献の一環として、1991年より「全国高校サッカー選手権大会」に協賛。各都道府県の代表校には、人工皮革「コードレ」を使用したサッカーボールを寄贈しています。



若き科学技術者の育成を行う 公益財団法人帝人奨学会

国内外の学生へ、奨学金を貸与

帝人株式会社の創業メンバーである久村清太氏の功績を讃え、1954年に財団法人として創設されました。企業が設立・運営する奨学会制度としては、日本で最も歴史のある団体の一つであり、これまでに約1,700名の理系学生を支援してきました。

サステナビリティに関するより詳しい取り組み内容は、右記をご覧ください。



Corporate governance

コーポレート・ガバナンス

帝人グループは1999年にガバナンス改革を行い、コーポレート・ガバナンス強化にいち早く取り組んできました。取締役会、監査役会の多様性にも早期から取り組んでおり、2003年より女性の社外監査役を、2018年より女性の社外取締役を選任しています。取締役会は社外取締役を議長とするとともに、社外取締役比率を50%とし、その独立性を高めています。社外取締役とCEO、会長(会長が不在の場合には空席)で構成される指名・報酬諮問委員会に加え、広く長期的視点から経営全般への助言を行うことを目的に、国内外の有識者で構成する「アドバイザー・ボード」を設置し、取締役会の諮問機関と位置づけ運営しています。また、グループ全体に「行動規範」や「企業倫理規程」などの周知徹底を図り、帝人グループ全体でのコンプライアンス強化に努めています。

帝人グループ「行動規範」

TOGETHER

私たちは、多様性をお互いに尊重し、知識と能力を結集して持続可能な価値を共創します。

ENVIRONMENT, SAFETY & HEALTH

私たちは、事業活動にあたり、地球環境、安全、健康を最優先します。

INTEGRITY

私たちは、法令・規則を遵守し、人権および地域コミュニティを尊重して、誠実に行動します。

JOY AT WORK

私たちは、皆が仕事に情熱を持つことができる、働きがいに満ちた明るい職場をつくりあげます。

INNOVATION

私たちは、たゆまぬ変革により、社会やお客様のニーズを先取りした革新的なソリューションの創出に挑戦し続けます。

グローバルネットワーク

海外拠点の詳細情報はこちら

<https://www.teijin.co.jp/about/group-worldwide/material/>



帝人グループは、世界20カ国以上に拠点を擁し、多様なバックグラウンドを持つ約2万人にのぼる社員が世界をステージに活躍しています。

Teijin Aramid B.V.



Teijin Carbon Europe GmbH



Teijin Automotive Technologies NA Holdings Corp.



日本

Japan

グループ会社: **56**社

従業員: **9,634**名

欧州

Netherlands / Germany / Portugal / Czech Republic / France / Spain / Hungary / UK / Luxembourg

グループ会社: **22**社

従業員: **3,035**名

アジア

China / Thailand / Vietnam / Malaysia / Singapore / South Korea / Myanmar / India / Indonesia

グループ会社: **49**社

従業員: **4,276**名



Teijin Polyester (Thailand) Limited



帝人株式会社岩国事業所

北米・中南米地域・オセアニア

US / Mexico / Brazil

グループ会社: **40**社

従業員: **4,889**名

合計

167社
21,834名

2024年3月31日現在

パーパスを軸に、バリューを実現し、 長期ビジョンを達成する

帝人グループは、「Pioneering solutions together for a healthy planet」を当社の存在意義である、パーパスとして掲げています。私自身も従業員と何度も対話し、創業から100年以上大切にしてきた価値観や存在意義を再確認するプロセスを経て、皆で策定したパーパスです。地球環境とそこに暮らす人々の健康のために私たちは存在する、という強い意味を込めており、そのような存在であり続けるために、社内および同じ目標に向かう社外のパートナー様と力を合わせ、未来に先駆けて課題解決策を創出していきたくと思っています。

また、パーパスと共に私たちが大切にしたい3つの価値観(=バリュー)を、「すべての挑戦をリスペクトします」、「多様な仲間と専門性を活かして成長します」、「地球とあらゆる生命に寄り添い、守ります」と決めました。私たちは、パーパスを軸に、従業員が一体となってバリューを実現することによって、私たちの長期ビジョン

である、「未来の社会を支える会社」になることを実現して参ります。

このパーパスを軸にした社会課題の解決に向け、今年、中期経営計画2024-2025を発表いたしました。私たちの力を結集し、最大化するために、重要産業セクターを「モビリティ」「インフラ&インダストリアル」「ヘルスケア」に決めました。更に、「モビリティ」ではCO₂削減、航続距離延長、電子化など、「インフラ&インダストリアル」では再生可能エネルギーやサステナビリティへの対応、「ヘルスケア」では希少疾患や難病への治療薬や患者サポート、に注力することで、複雑化する社会課題に対応します。

いつもお世話になっておりますステークホルダーの皆さまには、帝人グループの成長に向けまして、ご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



代表取締役社長執行役員 CEO

内川 哲茂

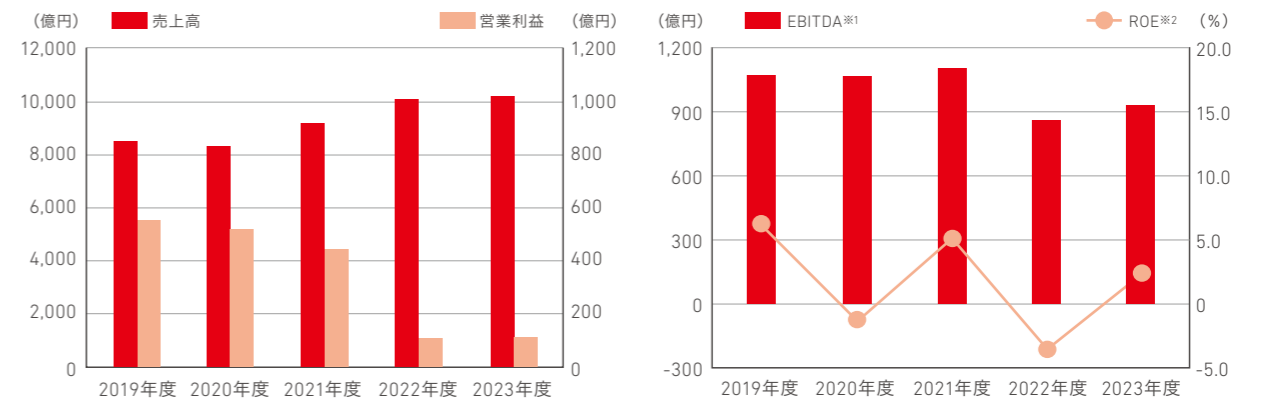
会社概要

| 社名 | 創立 | 資本金 |
|-------------------------|------------------|-------------------------|
| 帝人株式会社 (TEIJIN LIMITED) | 1918年(大正7年)6月17日 | 71,833百万円(2024年3月31日現在) |

【本社】

| 東京本社 | 大阪本社 | 大阪本社肥後橋オフィス |
|---|--|--|
| 〒100-8585 東京都千代田区霞が関三丁目2番1号 霞が関コモンゲート西館 TEL:03-3506-4529(代表) | 〒530-8605 大阪市北区中之島三丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト TEL:06-6233-3401(代表) | 〒550-8587 大阪市西区土佐堀一丁目3番7号 肥後橋シミズビル TEL:06-6459-2110(代表) |

業績(連結)



※1:「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出
 ※2:「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

事業分野と収益構成(2023年度)

